



強入りし大いに盛り上がったが、サッカー日本代表も2022W杯に向けアジア2次予選で好発進。そのメンバーの多くがヨーロッパのプロチームで活躍中だ。1968年に二宮寛は三菱重工サッカーチーム監督に就くと、三菱財閥4代目総帥の岩崎小弥太を岳父に持ち「三菱の天皇」と呼ばれた社長の牧田與一郎と対峙。「どうやつたら勝てるんだ?」「サラリーマン選手達の待遇を改善してください」

選手のためには15時選手を全部実現せよ」。結果、

勤務(やがて午前中)、夜行列車が新幹線、日本初の南米遠征や若手の海外留学、人工芝

ラグビー日本代表が自国開催のW杯で世界8強入りし大いに盛り上がったが、サッカー日本代表も2022W杯に向けアジア2次予選で好発進。そのメンバーの多くがヨーロッパのプロチームで活躍中だ。1968年に二宮寛は三菱重工サッカーチーム監督に就くと、三菱財閥4代目総帥の岩崎小弥太を岳父に持ち「三菱の天皇」と呼ばれた社長の牧田與一郎と対峙。「どうやつたら勝てるんだ?」「サラリーマン選手達の待遇を改善してください」

元サッカー日本代表監督
パッパニニヨ店主

二宮寛氏 (82)



ドイツに義父を持つ男

グラウンド、医療チーム設置などを勝ち取る。二宮自身、6時に家を出て7時出社、皇居を2周走り9時始業、17時から数時間練習し24時まで残業という過酷な生活を4年間続けたからこそ、親心の待遇改善だつた。

その後、ドイツでデュッセルドルフ支店を通じブンデスリーガの名門ボルシアMGを紹介され、寒波の中、選手達の練習を凝視。10日後に監督のヘネス・バイスバイラーカーから「今日から我が家へ泊まれ」と声を掛けられ40日間寝食を共に。「俺の息子のヒロシだ」と紹介されるまでになる。当時の三菱重工は4人の日本代表選手が海外経験も豊富で実力が備わっていた。期待の若手をバイスバイラーカーが定期的に受け入れてくれた。それらの結果、東洋工業の連覇を阻み初優勝。日本リーグ優勝2回、天皇杯2回など輝かしい成績を収めた。日本代表監督時代に送り出した古河電工の奥寺康彦はケルンでプロ第1号となる。

ヨーロッパとの長い繋がりを買われ欧州三菱自動車工業会長へ。年間販売台数を蘭、白(ベルギー)、英、独4カ国3000台から22年かけヨーロッパ、中近東で30万台にした。日本では夢にまで見たJリーグが誕生、三菱自動車が母体の浦和レッズは熱いサポーターの人気チームになつていた。2年間の本社勤務後、葉山御用邸に近い場所でカフェを開業。「パッパニニヨ」は盟友フランツ・ベックンバウアーが命名。「お父さん&少年」の意。日本のサッカー選手の多くがヨーロッパのプロチームへ所属しているのは二宮が端緒を開いたから。「それは選手自身の力で私の個人的な支援と関わりがあるかどうかはわかりません。機縁をつくった程度でしよう」と謙遜しつつ「一步一歩培い、レギュラーとして定着して欲しい。メディアは持ち上げ過ぎない」と助言も忘れない。

（文中敬称略）